

FDGs - あいのりで繋ぐのりあいターミナル -

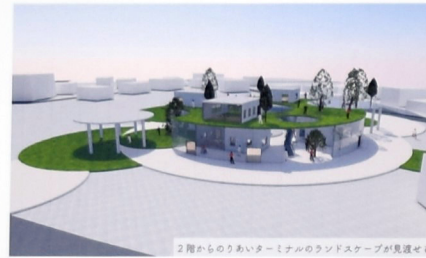
F (flexible) D (development) G (goals) -SDGs から柔軟な開発目標へ-

Flexible: 柔軟とは、順応性に富んでいて、さまざまなものに素直に対応しようとする、という意味である。SDGs 後の未来では、地球温暖化の影響による大規模な自然災害や環境問題、食料・難民問題、ジェンダー格差問題など、急な対策が必要とすることが出てくるだろう。そこで、Flexible: 柔軟さが重要になってくると考えらる。

そこで、SDGs の先に FDGs を掲げる社会を提案する。

FDGs: 7つの目標

1. 食料を0に
2. 自由な教育を
3. 全ての人が公平に
4. 繋げる支援の輪
5. 自然と共存し災害に強い街を
6. 後世に住み継ぐまちづくり
7. パートナリシップでより良い未来を創ろう



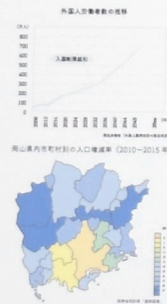
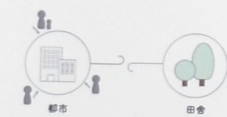
2階からのりあいターミナルのランドスケープが見渡せる

01. SDGs 後の課題

MDGs 後では二酸化炭素の増加が大きな課題として残った。同時に SDGs の先の社会では、日本の超少子高齢化が大きな課題ともなるだろう。

その対策として、日本では移民の導入制度を緩和し、外国人労働者が増加すると予想する。

しかし都市部は様々な機能・人口・働き手が集中し過密が起ころ。田舎では農林業や対地としての機能を果たすようになる。正反対の機能を持つ2つの独立し、関係が薄まっていくでしょう。



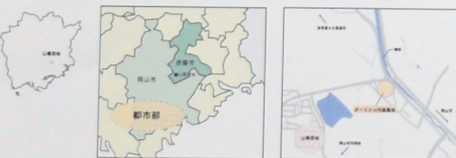
02. 繋ぐバスターミナル

繋ぐのり。都市部のみの第二の人口過密を解決する。ニュータウンを新たな架け橋としてもう一度活性化させる。その為、3地域を繋ぐバスターミナルを作り、ニュータウンの人口増加を図る。



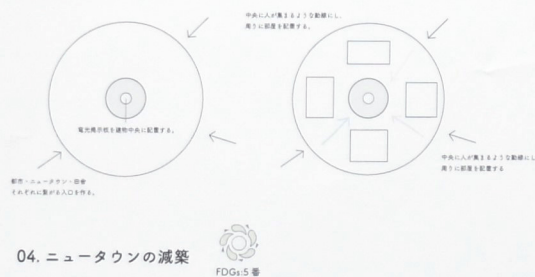
対象地域: 岡山県赤松市山陽団地

バスターミナルはニュータウンへの人口流入を目的としている。ニュータウンの近くに設置。今回は境界集落として超少子高齢化が起きている山陽団地を活性化させる。『田舎』『ニュータウン』『都市』の3つが繋がる道路の近くを敷地とする。



今回は山陽団地を敷地として設定したが、このシステムを日本中に広げていく。過疎化が進んでいる地域を活性化させ、3つの地域のトライアングルを日本中で形成することで、誰も取り残さない支援の輪が出来上がっていく。

〔ターミナル: 空間のダイアグラム〕

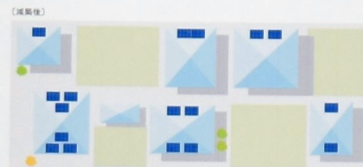
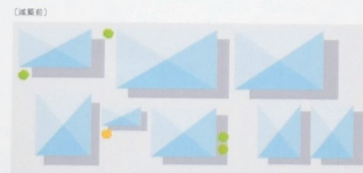


04. ニュータウンの減築



減築を通して、ニュータウンをコンパクトに。

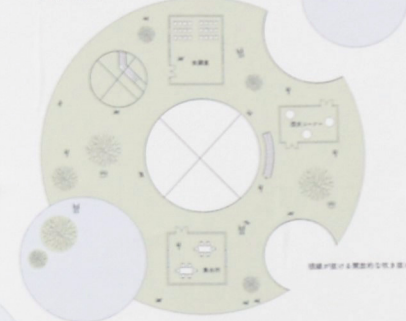
住宅の絶対数: 需要 < 供給
現在、1950年代に過密対策として郊外に作られたニュータウンは空き家が非常に多い。ニュータウンを都市と田舎の中間的存在とし、人々に住んでもらう為に『住みやすさ』と『自然の豊かさ』の両立が必要となる。



のりあいターミナル1階平面図



2階平面図



00. のりあいターミナル FDGs: 2番

AIの発展により、常に最新の情報が求められる世の中。情報を求めて電光石火のある建物中央に人が集まってくるような動線により、道路が通り新たな出会いを生み出す場としての機能を果たす。

カルチャースクール、駅、カフェなどの施設の設置により、多種多様な人が行き来し、都市・田舎・ニュータウンを繋ぐのりあいターミナルとして周辺地域の活性化を目指す。

05. ニュータウンの特徴



ニュータウンのメリット

地理的・役割的に最適	都市と田舎の中間に位置し、2つの役割を果たす
空き家が多く、地価が安価	都市にアクセス可能なため移住しやすく、外国人労働者にも良い
規則正しく整備された住宅街	AIバスが走りやすく、公園や緑地等があるため自然を感じられる

上記のように、ニュータウンには田舎や都市にはないメリットがある。二世帯目の住宅を持ちたい人は田舎生活を、交通の便がいいところで暮らしたい人は都会生活を。在宅勤務をしつつ、都市とある程度の距離が必要なのはニュータウン生活と自由な選択が可能となる。

06. バスターミナルの機能



〔目的〕

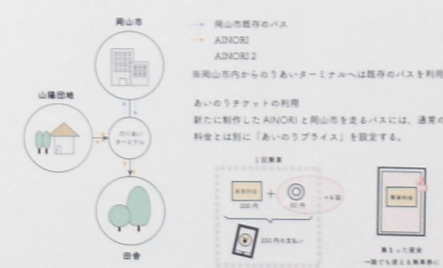
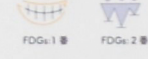
1. 都市部の人口過密を解決する。ニュータウンの交通の利便性を上げ住みやすい都市とする
2. 独立した都市と田舎をつなぐ中間的役割

都市と田舎の2つの関係が薄いとどちらかに自然災害などの問題が起きた時に対応が難しい。そのため距離的にも役割的にも中間に位置するニュータウンを第二の都市として再開発をする。

のりあいターミナルは交通の便が悪く過疎化が深刻になっていたニュータウンの交通などの利便性をあげ、人口を誘致役割を担う。

3つがそれぞれの特徴を生かした役割を持つことで社会が柔軟に問題解決に対応することが可能となる。

07. バスシステム



AIを搭載した自動運転バス

ニュータウン内とニュータウン・田舎を走る『Aino Rori』
特徴: コミュニケーションが生まれやすいような中心を囲むように設置された座席
前後の区別がなく左右どちらからでも乗り降り可能。場所に合わせて動きができる

地域にフィットした物流配達: Aino Rori 2
特徴: 田舎で取れた新鮮な野菜の配達や、食品配達を行う

イメージ図: Aino Rori

